

登録番号 事業所名	取組の感想
第19-0003号 (株)ワイ・ケー電 子	<p>社会貢献活動の一環として、ビーチクリーン活動をお客様や協力会 者様にも参加していただき、実施いたしました。今後も恒例行事とし て継続、推進してまいります。</p> <p>環境負荷軽減として、劣化してきた薬液タンクを更新して新しいも のに変えました。更に、事故や災害等の緊急時に流出なきよう防液提 を設けました。</p>
第19-0005号 (株)横浜製作所	<p>平成26年度に引き続き、電気使用量の削減については、1時間当 たりの使用量目標を達成しました。平成28年度は更なる電気使用量 の削減を目指し、初心に戻り節電意識の高揚の取組を実施しておりま す。廃棄物の排出量も、平成27年度は目標値を達成することができ ました。また、平成27年度から「毎月1日に会社周辺の清掃」を実 施する社会貢献活動の取組も毎月実施することができました。</p> <p>平成28年度も「本来業務の作業改善の取組」を中心に環境負荷の 低減に努めていきます。</p>
第19-0007号 (株)加藤工務店	<p>環境悪化防止のための動きを社内はもとより、建築現場においては 取引業者にも声を掛けて、ごみの分別や低減に力を入れてきました。</p> <p>車両も順次、低燃費車に切り替えを行う等、引き続き、良い環境へ の取組を重ねていきたいと思っています。</p>
第19-0008号 (株)ラテン大和	<p>新しい項目を増やすことを頭に行動して参りましたが、なかなか難 しく、途中で切り替え、現在取り組んでいることを更に強化しまし た。結果が今ひとつでした。</p> <p>継続して取り組んで行こうと考えます。</p>
第20-0001号 相鉄バス(株) 綾瀬営業所	<p>平成27年度は、平成26年度まで実施しておりました施設面にお ける照明関係のLED化は全て完了していることから、更なる省エネ を推進し環境負荷を低減させるために、全営業所員が一丸となり事務 用品及び電気・水道・ガスの節約に取り組んで参りました。</p> <p>また、車両の代替につきましては、低公害・高燃費アイドリングス トップ車、更には、排ガスのクリーン化に役立つ尿素バスの導入を推 進するため、4両の新型車両を導入いたしました。なお、平成28年 度は車両の代替計画はございません。</p>
第20-0002号 (株)メイコー	<p>平成27年度も環境予算（ボイラー燃焼方式を重油から天然ガス 化）の申請を行ったが否決されてしまい、具体的な環境対応を実施す ることはできておりません。</p> <p>また、平成27年度後半から環境対応の人員が全員新任となり、 今、思っていることは、従業員の環境意識を高めることが必要不可欠 であるということです。</p> <p>平成28年度も小さい効果であると思われませんが、地道な活動を展 開していきます。</p>
第20-0003号 (株)東牧土木	<p>目標としている取組は、日常的になっております。</p> <p>今後も引き続き、環境負荷の低減に努めていきます。</p>

<p>第20-0004号 株ネエチア</p>	<p>今期（平成27年7月～平成28年6月）は、平成26年度に引き続き、間接的に環境負荷を減らすことを目的として、本来業務とISO活動を一体化させる活動を行いました。 また、平成27年4月1日フロン排出抑制法が施行され、業務用空調機器の簡易点検（3か月に1回以上）が対象になり、平成27年9月・12月・平成28年3月に簡易点検を実施しました。</p>
<p>第20-0005号 有青柳商店</p>	<p>平成26年度より取組内容が増えました。 今後も、出来ることは努めてやっていきたいと思ひます。</p>
<p>第20-0006号 株山勝</p>	<p>ISO14001の取組の中で工場設備の電気使用量の削減を恒常的に取り組んでいます。 平成26年同様、電気使用量や燃料使用量は「削減」の結果となった。これは企業努力としての使用しないトラックの削減や、外部要因としての製造業の景気低迷による工場稼働の縮小並びに運搬量の減少に起因するものと判断している。</p>
<p>第20-0007号 株栄和産業</p>	<p>平成27年度は、ごみを減量させる活動に取り組みました。ごみの処分に係る費用を種別で月間、年間で集計した資料を基にグループミーティングでごみの減量方法について考えました。結果、今までごみとして廃却していた物の中でリサイクルに回せるものに気付き、ごみの廃却経費が削減できました。また、その効果を社内に周知し社員全体で環境改善活動について実感する事ができたと思ひます。 平成28年度もテーマが決まっており、社内の環境改善に努めてまいります。</p>
<p>第20-0008号 株タズミ</p>	<p>平成27年度も引き続き、焼却されていた廃棄物の燃料化を推進し、自治体からの一般廃棄物・産業廃棄物や食品系製造事業所からの産業廃棄物等の燃料化を推進し、結果、10,110トンを利用されました。 また、環境負荷低減（地球温暖化防止対策等）の取組としては、最新規制の車両への切り替え、エコドライブやエコ操作は継続的に実施し効果を維持するとともに、工場部門では設備保全や原料の調合の工夫により生産性を維持、使用した電力や水は、原単位でも効率的に使用することができました。 更に、事務用什器類の更新や備品の購入については、環境負荷の少ない製品（グリーン購入品など）の購入の拡大に努めました。</p>
<p>第20-0013号 有協和商事</p>	<p>引き続き実践していきながら、続けることに負担を感じないように、更に新しい取組も増やし、今後も積極的に取り組んでいきたいと思ひます。</p>
<p>有野中工業</p>	<p>紙の再利用、照明の消灯等は、意識が向上しています。ごみと資源の分別が他国籍の従業員がいるため徹底できず、今後の課題です。</p>
<p>第21-0001号 株KYOEI</p>	<p>年数が経つにつれ、取組に対しての気持ちが薄れているようです。 継続していく難しさはありますが、習慣になっているものも多々ありますので、他の達成できないでいる目標も習慣化できるよう取り組みたいと思ひます。</p>

<p>第22-0001号 株式会社紺野企業</p>	<p>例年通り敷地内の緑化にゴーヤとサンパチェンスを一緒に植えるグリーンカーテンにより、更なるCO₂削減を行ったことと、新規施設として機械選別施設を設置し金属くず（スチール缶、アルミ缶）、PETボトル、ガラス瓶等の選別を開始しました。カーボンオフセットも導入し、受け入れ廃棄物に対してオフセット（相殺）していくことを採用しております。</p> <p>継続的に行われているエコアクション21の環境活動の中で、主に、燃料使用量の削減や工場設備の電気使用量の削減、並びに、排出抑制のための紙の使用量の抑制に取り組んでまいりました。燃料使用量に関しては、車両の増車に伴う低公害車、低燃費車の導入を行い、ガソリン使用量の削減に努めてまいりました。</p> <p>工場設備の工場、倉庫の増設に伴い電気使用量を削減するため、スマートメーターの導入と第一工場動力プレス機の入れ替えを行うことで、使用電気の削減計画を予定しています。ミスト噴霧器を導入し周囲の気温を低減する取組、使用量の把握とともに削減を継続的に行っています。</p> <p>紙の使用量の排出抑制をするために、使用済みの用紙の裏紙使用、両面印刷の徹底を継続的に行っています。</p>
<p>第22-0002号 株式会社横浜乳業</p>	<p>平成26年度に引き続き、エネルギー使用量削減に取り組み、電力、燃料、用水の3項目で使用量の削減となりましたが、製造原単位では、増加してしまいました。平成28年度は、使用量と原単位を改善・削減できるように、より効果の出る取組内容を選定し、実施します。</p> <p>また、生ごみ処理機を導入し、食堂の残渣類は液肥化して処理するようになり、廃棄物発生量の抑制につながっております。</p>
<p>第22-0003号 株式会社川崎製作所</p>	<p>節電意識が浸透し、時間帯による消灯活動は実施できている。事務用品について、優先してエコマーク商品を購入している。電気、ガソリンの使用量を毎月数値化して社内で報告している。車両ルート効率化を意識した結果、削減につながっている。</p>
<p>トピー工業株式会社</p>	<p>省エネルギー、地球温暖化防止活動、環境負荷の低減、環境に配慮した製品開発を通じて、環境に配慮した事業活動を行ってきております。平成27年度は、概ね設定した目標が達成できました。</p> <p>平成28年度も、更に環境を重視した活動を行っていきたいと考えております。</p>
<p>第24-0002号 株式会社飯室商店</p>	<p>平成27年度は、照明器具のLED化と事務所・工場内の部分点灯（消灯）に注力しました。具体的効果の数字はまだまだ小さいものですが、地道に継続していきたいと思います。</p> <p>恒例の壁面緑化ゴーヤ8株からは、たくさんの収穫がありました。無機質な工場（事務所）がフサフサの緑に覆われ涼やかな気持ちになるだけでなく、実際に室温も3度程度涼しくなりました。また、近隣工場のみなさまとの交流はもちろん、弊社にご来訪いただいたお客様との会話も弾み、平成27年も「楽しくておいしい場」となりました。</p>

<p>第24-0004号 (株)あやせ電気</p>	<p>会社を始めて以来、常に環境のことは気を付けてきました。 店前に長い間バス停があるため、常に吸い殻が落ちています。朝、まずごみ拾いから始まります。</p>
<p>第24-0005号 (有)中電社</p>	<p>平成27年度の住宅用照明器具販売実績は、100%がLEDでした。また、施設用照明器具販売実績は、98%がLEDで、産業用特殊照明(LED代替品なし)が2%という結果になりました。法人向けに、専用ソフトによるコストパフォーマンス比較表を提案したことが結果に繋がった部分もあると思いますが、その一方で、設備投資に踏み切れず、提案のみに終わったケースも多くありました。住宅用照明ではLEDが定着し、各メーカーのカタログから白熱灯・蛍光灯が消えつつあります。今後も環境負荷低減の提案をしていきたいと思えます。</p> <p>従来通りの取組ですが、オフィス関連、建設副産物の再利用等は、100%定着しております。</p> <p>エコドライブは100%ですが、アイドリングストップに関しては、平成26年と同様で、達成率20%程度でした。高所作業車等は操作ボタンを押してから惰性で走行し、10秒後にストップする装置のため、信号手前で判断するのが難しく実施できていません。毎回強制的にエンジンキーを切るのは、スターターが壊れそうで不安ですが、今後も引き続き達成率を上げるよう努めてまいります。</p>
<p>第24-0006号 (株)かなしんオフセット</p>	<p>社内で環境負荷の低減の取組を行っており、コピーの使用量については、平成26年比25.5%の減と大きな成果となりました。</p> <p>オフィスのペーパーレス化についても、順次行う予定です。</p>
<p>第25-0001号 武田商事(株)</p>	<p>平成26年度からの取組は継続できており、そこから派生した新たな取組を追加し実行することができました。</p> <p>今後は、これまでとは違った視点からの新たな取組を見つけていきたいです。</p>
<p>第25-0002号 秋本食品(株)</p>	<p>ISO9001、14001の認証工場であり、社員全員にISO教育を行っています。取り組んでいる内容の多くは、日々の業務の中で全員が当然のように行うことができるようになってきたと感じます。今後も、環境負荷の低減に努めてまいります。</p>
<p>第25-0003号 (株)高座豚手造りハム</p>	<p>従業員が節電・節水に対する意識を持って動くことは、できているかなと思えました。</p> <p>更に意識を広め、取り組んでいきたいと思えます。</p>
<p>第25-0004号 (有)パレト・モンパル</p>	<p>丸電球を店内全部LEDに変えました。</p>
<p>第25-0005号 (有)矢部商店</p>	<p>ついうっかりしがちなので、常に意識して取り組みたいと思えます。</p>

<p>第26-0001号 エムケーチーズ ㈱</p>	<p>平成26年度に引き続き、CO₂・用水・廃プラや汚泥等の廃棄物をターゲットとして、各々原単位削減目標値を設定して取組を実施しました。毎月定期報告会を開催しており、各職場からも意見が活発に出るようになってきました。 掲げた目標を達成するために全社を挙げて努力し、今後も省エネ・廃棄物発生抑制などのエコ活動を行っていきます。</p>
<p>第26-0004号 大平食品加工㈱</p>	<p>平成26年に引き続き意識を持って取り組み、改めて環境への配慮を確認することができました。</p>
<p>第26-0006号 明電ケミカル㈱ 相模事業所</p>	<p>環境活動においては、電力使用量削減に取り組み、平成27年度目標を達成することができました。こまめな節電だけでなく、電力消費量の大きい製造設備については、時間差始動することが重要でした。今後も、エネルギー消費量の削減に取り組みます。</p>
<p>第26-0007号 ㈱アサヒコ</p>	<p>目標を掲げることで個々の意識が向上し、効率よく取り組むことができたと思います。 2年目になりますが、引き続き継続し、取組目標の達成に向け、環境にやさしい企業へと努めていきます。</p>
<p>第26-0008号 東ソー㈱東京研 究センター</p>	<p>平成27年度は、改正されたフロン排出抑制法への対応や、照明器具の段階的LED化、省エネ型空調設備の導入、廃棄物の分別回収などの環境負荷低減への取組を実施しております。 今後も、資源の再利用や分別収集徹底による廃棄物低減への取組、省エネ対策や省エネ型設備の導入等により、環境負荷低減に、より一層努力してまいります。</p>
<p>第26-0009号 日本蛍光化学㈱</p>	<p>従来より取り組んでいた内容でしたが、改めて環境への配慮を確認することができました。 今後は、新たな目標を追加できるように努めてまいります。</p>
<p>第26-0010号 東急リネンサプ ライ㈱相模工場</p>	<p>使い捨て製品の抑制で、マイはし、マイコップを進めているが、持って来るのを忘れる人が多いです。</p>

種別内容	目標内容	取組内容	内容番号	第25-0003号	第25-0004号	第25-0005号	第26-0001号	第26-0004号	第26-0006号	第26-0007号	第26-0008号	第26-0009号	第26-0010号		
				髙産豚手造りハム	福バレ・ド・モンバル	南矢部商店	エムケーチーズ㈱	大平食品加工㈱	明電ケミカル㈱相模原事業所	㈱アサヒコ	東ソー㈱東京研究センター	日本蛍光化学㈱	東急リネンサプライ㈱相模工場		
廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理①	紙の使用量を抑制する。①	両面印刷、両面コピーを徹底する。	010101							○		○			
		使用済み用紙の裏紙や使用済み封筒を再利用する。	010102	○	○	◎					◎	◎	◎		
	廃棄物の発生を抑える取組を実施する。②	電子メディアの利用等によりオフィス等のペーパーレス化を推進する。	010103	○											
		使い捨て製品（紙コップ、紙皿、使い捨て容器入りの弁当等）の使用や購入を抑制する。	010201											○	
		リターナブル容器（ビール瓶、一升瓶等）に入った製品を優先的に購入・使用する。	010202												
		再使用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用する。	010203												
		コピー機、パソコン、プリンタ等はリサイクルしやすい素材を使用しているものを使用する。	010204												
		詰め替え可能な製品を利用したり備品の修理などにより、製品等の長期使用を進め、包装・梱包（段ボール、魚箱等）の削減、再使用を進める。	010205	○											
		製造段階で環境に影響を及ぼさない原材料を使用したり使用済み製品の回収・再利用を徹底するなどにより有害廃棄物の削減を進める。	010207												
	オフィス等におけるリサイクル化を促進する。③	紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスを適正に設置するなどにより、ごみの分別を徹底する。	010301								◎				
コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進める。		010302								◎			◎		
食べ残しや食品の残り滓は可能な限りコンポスト化（堆肥化）して利用する。		010303													
出荷・販売等に際しての梱包等に配慮する。④	包装、梱包等のリサイクル化を推進する。	010304					◎								
	簡易包装の推進、多重包装の見直し、量り売り、ばら売りの推進等により、包装紙、紙、容器、置い物袋、食品トレイ、ラップ等を削減する。	010401			○										
	詰め替え式の容器・製品の販売促進に取り組む。	010402													
	リターナブル容器入りの製品の販売促進に取り組む。	010403													
	紙バッグ、食品トレイ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル等の店頭回収・リサイクルを行う。	010404													
生産工程におけるリサイクルに取り組み。⑤	製造工程から発生する金属屑、紙屑、廃液などの回収・再利用のための設備を設置し、活用する。	010501							○						
再生紙の使用を推進する。①	コピー用紙、コンピューター用紙、伝票・事務用箋等、印刷物・パンフレット、トレットペーパー、名刺、その他の紙について、再生紙や環境に配慮した紙類への転換用紙の使用に当たって、再生パルプの使用率や白色度を考慮して使用目標・基準を定め、使用状況を把握しながら使用する。	020101													
	再生紙から作られた製品を優先的に購入し、使用する。	020102													
	エコマーク商品を優先的に購入する。	020201					○								
	再生材料から作られた製品を優先的に購入し、使用する。	020202													
	間伐材、采利用資源等を利用した製品を積極的に購入し、使用する。	020203													
製品の環境負荷の少ない製品の購入・選択に当たって環境に配慮する。②	木材の調達に当たり、伐採跡地の緑化・植林・環境修復が適切に行われていることを配慮したり跡地の緑化等に協力する。	020204													
	その他、無漂白製品（衣料品等）、水性塗料等の環境への負荷の少ない製品を優先的に購入、使用する。	020205													
	最新の排ガス規制や騒音規制に適合した車への代替を進める。	030101													
	資材搬入口において、騒音・粉塵対策、渋滞防止等の環境対策を行う。	030201													
	新技術を活用した車検などを行い、排ガスに含まれる二酸化炭素や窒素酸化物、炭化水素などの量を少なくすることに取り組む。	030301													
雨水等を再利用し環境に配慮する。①	雨水の貯留タンクや雨水利用施設等を設置し、雨水利用を積極的に行う。	040101													
	汚排水の再利用（中水利用）を行う。	040102													
	節水型の家電製品、水洗トイレ等を積極的に購入する。	040201													
	トイレに「水流し音発生器」をつけるなどにより、トイレ用水を節約する。	040202													
環境整備と周辺の自然環境の保全に配慮する。②	蛇口に節水こま（適量の水を確守機能を待つこま）を設置する。	040203													
	新規事業を始める際、企画・計画・設計、建設、運用、改修・解体のそれぞれの段階において環境影響評価を行い、これに基づいて環境保全のため適切な対策を行う。	050101													
	事業実施前に行われた環境影響評価の結果が妥当であったかどうかのフォローアップを事業中及び事業後に行う。	050102													
	発注者及び設計者に対し、建設副産物のリサイクル、合板型枠の使用合理化等、環境保全の提案を行う。	050103													
環境整備と周辺の自然環境の保全に配慮する。③	敷地内、壁面、屋上等の緑化を実施する。	050201													
	地域の自然環境との調和に配慮し、生態系や景観の保全に取り組む。	050202													
	環境を改善する代替措置として環境修復（リメディエーション）を計画・設計に盛り込む。	050203													
	雨水を地下浸透させる設備（浸透井等）の導入や屋外駐車場等で雨水が地下浸透できるようにするための工夫等を行う。	050204													
環境負荷の少ない建築材の使用等を推進する。③	建築物の建築・改築に当たり、環境負荷の少ない建築材の使用、建築材の使用合理化に取り組む。	050301													
	工事中の樹木の保護を行う。	050302													
	木材、コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組む。	050303													
	建設物の老朽化や運用の診断を行い、改善や環境保全設備の見直し等の提案を行う。	050401													
建設物の環境への影響を予防するための対策を講じる。④	建築物の耐久性の向上に取り組む。	050402													
	施設閉鎖、建築物の解体等の際に環境に配慮する。	050601													
	現状から用途転換をする等の計画プロジェクトの前に環境影響評価を行う。	050602													
大気汚染物質排出量を削減する。①	大気汚染の少ないプロセス・機器（低NOx燃焼機器など）を採用する。	060101													
	大気汚染について、法令による基準より厳しい自主管理基準を設定し、その達成に努める。	060102					◎								
	ばい煙等の測定・監視を定期的に行う。	060103					◎		○				◎		
	事故や災害の際の汚染防止対策の手順を定め、必要な訓練等を行う。	060104													
水質汚濁物質排出を削減する。②	水質汚濁の少ないプロセス・機器（廃液の回収・再利用など）を採用する。	060201													
	水質汚濁等について、法令による基準より厳しい自主管理基準を設定し、その達成に努める。	060202					◎								
	夜間照明による光害を防止するための措置を講じる。	060301													
	有害な臭気、騒音、振動等の防止対策を講じる。③	060401													
化学物質の管理を徹底する。④	塩素系有機溶剤等の削減、代替物質への転換に取り組む。	060401													
	燃料油や溶剤等の揮発の防止に取り組む。	060402													
	屋外での除草剤、殺虫剤の使用の削減、合理化等に取り組む。	060403													
	製品の小型化等により、同一機能を維持しながら資源使用量のミニマム化（最小化）に取り組む。	070101													
製品（プライベートブランド商品を含む）設計に当たって環境に配慮する。①	製品の長寿命化に取り組む。	070102													
	製品の使用過程で消費されるエネルギーの削減に取り組む。	070103													
	再生資源の積極的利用に取り組む。	070104													
	廃棄物の発生抑制のため、適正なモデルチェンジを実施するようにする。	070105													
	製品の包装は可能な限り簡素化する。	070106													
	製品を、リサイクルしやすいよう、素材の種類や製品の部品点数の削減や、ネジの数を減らすことなどにより簡便にする。	070107													
	自社独自の環境保全型商品等の開発に積極的に取り組む。	070108													
	修理部品の長期的な確保に自主的に取り組む。	070201													
	使用後の製品の引き取りを行う。	070202													
	製品（プライベートブランド	自社製品及び社外から購入する部品等について、想定されている環境負荷のチェックリストを作成する。	070301												

種別内容	目標内容	取組内容	内容番号	第25-0003号	第25-0004号	第25-0005号	第26-0001号	第26-0004号	第26-0006号	第26-0007号	第26-0008号	第26-0009号	第26-0010号				
				髙座豚手造りハム	福バレ・ド・モンバル	南矢部商店	エムケーチーズ㈱	大平食品加工㈱	明電ケミカル㈱相模原事業所	㈱アサヒコ	東ソー㈱東京研究センター	日本蛍光化学㈱	東急リネンサプライ㈱相模工場				
⑦ 開発・設計等における環境保全型商品等の販売、消費者に対する情報提供を行う。	商品を含むに係る製品アセスメント(評価)等を実施する。③ 環境保全型商品等の販売、消費者に対する情報提供を行う。④	新製品開発、モデルチェンジ等に当たり、当該製品等が環境へ及ぼす負荷の測定・記録や、製品が廃棄物になった場合の適正処理困難性の評価、製品の生産から消費、廃棄までのライフサイクルアセスメント(L.C.A.)等を、製品の生産時や廃棄時の環境負荷の重さをグラフ等に表示する。	070302														
		既存製品についても、計画的に製品アセスメント等を実施する。	070303														
		外部から製品の環境負荷に関するデータの提供がなくなったときに協力する。	070304														
		外部から製品の環境負荷に関するデータの提供がなくなったときに協力する。	070305														
		再生資源を使用した商品、再生可能な商品、繰り返し使える商品、省資源・省エネルギー型の商品、容器包装を簡素化した商品、エコマーク製品等を重点的に販売する。	070401														
		上記商品の販売目標を定め、販売促進に積極的に取り組む。	070402														
		販売の際に環境保全型製品の表示、製品アセスメントの結果の表示等を行う。	070403														
		消費者等に環境保全型製品に関する情報を積極的に提供する。	070404														
		地球温暖化防止対策等	照明設備を適正管理する。①	照明点灯箇所を減らす。	080101	○		○		◎							
				ライトアップの時間を短縮したり、間引き消灯をする。	080102					◎							
照明器具は逐次省電力型に交換する。	080103						○			◎			◎				
室内とアスタでの照明を使い分ける。	080104																
トイレなどはセンサー式の照明にする。	080105									○							
昼休みは、一斉消灯、残業時は部分点灯とする。	080106			○													
非常口に高輝度誘導灯(※下記参照)を導入する。	080107																
自然光に配慮した照明器具の配置をする。	080108																
トイレ、廊下、階段などで自然光を取り入れる。	080109																
エリアに配慮したスイッチ回路にする。	080110																
電気の使用量を把握し、削減する。	080111							○									
地球温暖化防止対策等	事務機器を適正管理する。②	節電、待機モードへ切り替える。	080201		◎												
		複数台設置されているエレベーターでは、利用者の状況や用途に応じて開引運転を高度制御装置を導入する。	080301														
		高度制御装置を導入する。	080302														
		エネルギー消費の少ない自動販売機(ピークカット機能付き)を導入、更新する。	080401														
		自動販売機の台数を見直す。	080402														
		自動販売機の蛍光灯の消灯に努める。	080403					◎									
		地球温暖化防止対策等	冷暖房設備等を適正管理する。⑤	温度設定は夏期28℃、冬期19℃を目安とする。	080501	○					○						
				夏期はブラインドを利用、冬期は太陽光を取り入れ、不要な冷暖房の使用を控える。	080502												
				ヒートポンプシステムを導入する。	080503												
				地球温暖化防止対策等	空調設備を適正管理する。⑥	空調機器を定期的に補修点検する。	080601	○			◎						
省エネルギー型空調設備を導入する。	080602											◎					
蓄熱式空調システム(※下記参照)を導入する。	080603																
地球温暖化防止対策等	給湯設備を適正利用する。⑦					給湯器へエコノマイザーを導入する。	080701										
						潜熱回収型温水ボイラー(※下記参照)を導入する。	080702										
						太陽熱温水器を導入する。	080703										
						ガス使用量を把握し、削減する。	080704										
		地球温暖化防止対策等	ボイラーを適正利用する。⑧			ボイラーの低空気比燃焼等により、熱管理を徹底する。	080801										
						ボイラーの廃熱を利用する。	080802										
						LNG等CO2発生量の少ない燃料に転換する。	080807										
				重油使用量を把握し、適正に管理する。	080808								◎				
				地球温暖化防止対策等	自動車の適正使用及び抑制、又は低公害化する。⑨	アイドリングストップを実践する。	080901	○									
						使用台数を減らす。	080902										
使用抑制日を設定する。	080903																
走行ルートを合理化する。	080904																
買換えの際には低公害車、低燃費車を導入する。	080905					×											
重い上り車を低公害化する。	080906																
アイドリングストップアシスト装置のついたバスを導入する。	080907																
ガソリンの使用量を把握し、削減する。	080908																
地球温暖化防止対策等	省エネ設備等を採用又は改修する。⑩	灯油、LPG、LNG、都市ガス、重油を燃料としている燃料設備をエネルギー消費効率のよいものに改修する。	081001														
		複層ガラス、熱反射ガラスを採用する。	081002														
		電力効率化設備を採用する。	081003														
		地球温暖化防止対策等	省エネ対応製品等を購入又は更新する。⑪	深夜電力利用機器を導入する。	081101						○						
				水蓄熱システムを導入する。	081102												
				部品の交換修理が可能な製品や保守・修理サービス期間の長い製品、機能拡張性の高い製品を購入する。	081103												
				エネルギー消費効率の高い製品を導入、更新する。	081104												
				適正規模の機器を選択する。	081105												
				地球温暖化防止対策等	自然エネルギーを活用又は新システム等を導入する。⑫	太陽光発電等を導入する。	081201										
						ガスコージェネレーションや燃料電池コージェネレーションを導入する。	081202										
ビルのエネルギー管理システムを導入する。	081203																
地球温暖化防止対策等	特定フロンを削減又は温室効果ガスを排出抑制する。⑬					生産用フロン、冷却設備・空調設備の冷媒用フロンの削減又は全廃、ハロン消火設備等の代替又は全廃を行う。	081301										
						特定フロンの回収・適正処理に取り組む。	081302							◎			
		製造工程において、HFC、PFC、SF6をどれだけ使用し漏出しているかを把握し回収処理に取り組む。	081303														
		製造工程において可能な範囲でHFC、PFC、SF6をその他の物質に代替する。	081304														
		HFC、PFC、SF6を使用しない製造工程に変換する。	081305														
		製品購入の際には、できるだけHFC、PFC、SF6を使用していない製品を選ぶように配慮する。	081306														
		HFC、PFC、SF6を使用している製品を廃棄する際の回収に取り組む。	081307														
		非フロン系エアゾール製品を購入する。	081308														
		代替フロンを回収、再利用、破壊をする。	081309														

○高輝度誘導灯:通常の蛍光灯の代わりに、冷陰極蛍光ランプを使用した非常誘導灯

○ピークカット機能:電気の使いすぎを知らせ、使いすぎ時にはあらかじめ設定した エアコン等の回線を遮断し、不意の全停電を防止するもの

○蓄熱式空調システム:割安な夜間電力を利用し、冷房時は冷水や氷を、暖房時は温水を蓄熱槽に蓄え、蓄えた熱エネルギーを昼間に使用して空調を行うシステム

○潜熱回収型温水ボイラー:ガスボイラーの燃料ガスの排気ガス中の水蒸気が水に戻る時の熱(潜熱)を回収し、ボイラー給水の子熱に利用する温水ボイラー

○ヒートポンプシステム:低い温度の熱源から冷媒(熱を運ぶための媒体)を介して、熱を吸収する

ことによって高い温度にする機器で暖房・給湯等に使用する。